

第 2 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 会議録

日 時	令和 2 年（2020 年）1 月 31 日 15 時 0 分～17 時 0 分
場 所	熊本市役所 議会棟 2 階 議運・理事会室
出席委員	[別紙のとおり]
事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 出席委員及び会議の公開について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席委員（柴田委員、澤委員、藤岡委員） ・第 6 条に則り過半数の出席をいただき本委員会が成立することを報告する。 <p>3. 配布資料の確認</p> <p>4. 議事</p>
田中会長	<p>前回の委員会では、熱心な議論をしていただき、また熊日新聞にも大きく記事を書いていただいた。SNS 上でもかなりの反響が有り皆さんの街路樹に対する色々な思いがよく分かった。今日も皆さんご活発な意見をいただければと思う。</p> <p>議事に入る前に、本日の傍聴の方の確認を事務局お願いしたい。</p>
事務局	<p>今回の会議傍聴の方は、いない。</p> <p>1) 前回会議の振り返りについて</p> <p>[資料 1 に基づき説明]</p>
田中会長	<p>前回は、計画の中でも特に路線選定や公民連携のところでも多くの議論や意見をいただき非常に良かった。一点加えさせていただくと「計画のスケール」との話の中で、柴田委員が 100 年先を目指すようなものを作るのかとの話が出た。皆さんと議論していくのには 5 年位が良いのではないかと考えている。緑の基本計画では、緑全体を描くものであり、私自身は木々の専門家ではないことから、ここでは専門家の委員の皆さんを含めて街路樹とは何かを色々考えていく必要があると考えている。それを 5 年間で熊本の街路樹は「こうである」等の世論を作り上げていく。それには、マスコミをはじめいろいろな方々にもお手伝いいただき熊本らしい街路樹とは何かを再生計画に示す。恩師に当たる蓑茂先生は、総量としての緑は増えすぎていると言われている。それには適切に管理していく必要がある等を教えていただいた。その考えも含めて皆さんと賢い街路樹の運用を考えていければと思っている。</p>
事務局	<p>2) 第 1 期熊本市域街路樹再生計画（素案）について</p> <p>[資料 2 第 3 章 2.街路樹再生の基準（18 ページ）以降に基づき説明]</p>
田中会長	<p>本日ご欠席の柴田委員から事前にご意見をいただいている。</p> <p>柴田委員の意見として『6 ページの②として「巨大化した樹木の強剪定による樹形悪化」が課題として取り上げられていることは非常に良い。その上で、20 ページの日常管理でも強剪定は原則行わないと明記していることは大変評価できる。このことがしっかり実行できるだけでも市内の街路樹は大きく変わると思う。』というものである。</p>

	<p>県立劇場前で強剪定が行われた時に、熊日等から強烈に批判が出たと記憶している。今回の資料 3（地元説明会意見）や前回の会議後の熊日の記事内容もどちらかと言えば切っしてほしいとか、油で滑り危ないとかのネガティブな意見が多い感じがした。街路樹では、切りたいとする意見と残してもらいたいとする意見等、いろいろな意見があったかと思う。前回は議論させていただいたが、街路樹とはそもそも生き物なので人間の都合よくいくことはないと思わなければならない。樹木は植えた時が一番ではなく、植えてからしばらくした時が一番いい状態になるのではないかと思う。</p> <p>二つ目に、町にとって街路樹は資産ということである。熊本県は特に細川県知事の時に立派な街路樹を植えられおり、私も初めて熊本に来て、熊本空港からバスで市内に向かう街路樹の圧倒的な存在感が凄いと感じたことを良く覚えている。</p> <p>もう一つ皆さんと考えていきたいことは、最近公共事業の予算が足りなくなり、また、緑の総量が多くなりすぎている傾向にあると言われる中で、熊本市も SDGs 未来都市に選ばれサステナブルな対応が求められている。それは緑のサステナブルもあるし、行政として適切に予算を使い管理していかなければならないという意味もある。そういう中で、景観問題や安心安全問題をやっていかなければならない。その中先ずは、強剪定は極力やりたくない。それは、樹木にとっても景観にとってもよろしくない。こうなるまでに何とかしたい、ということである。</p> <p>次の柴田委員の意見は、『街路樹再生の対応基準 19 ページの高中木の分類 1 について、伐採する適用条件を設けることは必要だと思われるが、伐採後の補植の記載が無いことが気になる。伐採だけでは再生にならない。伐採の下の欄の更新とできれば同種での補植をセットで記載する必要がある。伐採したのであれば、更新や補植は義務であると考えている。高中木であれば尚更のことである。是非そのあたりの記載を、その実現性や体制も含めて追加の検討をお願いする。』というものである。</p> <p>本ご意見は、18 ページの「街路樹が抱える諸課題」分類 1：再整備についてと思われる。問題を抱えた街路樹は、「再整備」をするのか、「保全」をするのか、「日常管理」をするのかに分かれる。その中で、分類 1 の対応基準として、樹木を伐採するだけでは再整備にならない、との指摘である。それについての事務局の考えを伺いたい。</p> <p>再整備については、伐採のみならず残されるイチョウなどを本来あるべき樹形に整えていきたい。そのためには、樹幹や枝葉も伸びていくことから、過密化がおきているような樹木については間引くことも必要になると理解している。それと合わせて、路線の整備計画では、伐採により著しく連続性が損なわれる箇所については補植、新しい樹木を植えると書かせていただいている。柴田委員のご指摘にあったように、18 ページにその部分を記載しておかなければ理解しづらい、とのことであれば対応させていただきます。</p> <p>ここで伐採のみの記載であれば、伐採して何もしないのかと受け取れる。間引く場合には伐採のみで終わることもあるが、それ以外の時には補植し更新するなど、</p>
事務局	
田中会長	

	<p>順番や図の表現を見やすくしてもらいたい。</p> <p>柴田委員の意見として『19ページの表■伐採の欄の適用条件の記載内容の主旨や意図が不明瞭である。個別の条件の中身は理解できるが、「その心は」との部分を知りたい。なぜ、このような条件が必要なのか。全体の意図として本当に伐採が必要なもののみが適用されるように書かれたものなのか。それともこのような条件のものが見られたものを伐採したいと考え示されたものなのか、考えを伺いたい。』という事である。</p> <p>適用条件には事細かく条件が示されているが、この適用条件に該当すれば即伐採とするのか、今までに調査して知り得た条件を加味した中で伐採したいと考えたものなのか、どちらなのか事務局に伺いたい。</p>
事務局	<p>適用条件に合致する樹木が確認された場合、伐採を基本に街路樹全体のバランスを見ながら検討していきたい。</p>
田中会長	<p>サステナブルが大事であり、何から何まで切るという考え方ではなく、適切に切るとの考え方がここでの伐採の意味であり、その様に記載していただきたい。</p> <p>次に、柴田委員は『22ページのグリーンインフラの活用について主旨は理解できるし、賛同するが記述の仕方が非常に気になる。グリーンインフラを活用することで街路樹を再生することなのか。街路樹を再生することでグリーンインフラとしての機能を発揮させようとしているのかこの文章では理解できない。』とされている。事務局の考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>後者と捉えている。</p>
田中会長	<p>重ねて、柴田委員は『グリーンインフラを進める際には、様々な自然環境が有している多面的な機能を使いこなし、様々な諸課題解決の手段として活用していく視点が重要だと考えている。タイトルや本文（22ページ）では、「グリーンインフラとしての活用」としたほうが良いのではないか。』としている。事務局の考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>柴田委員のご指摘のとおり「グリーンインフラとしての活用」と修正したい。</p>
田中会長	<p>なぜ、グリーンインフラが大切かということ、SDGsの中でサステナブルがキーワードとなっており、17個の個別の目標を一緒にやるというのが大事である。まさに、ここに示された雨水浸透など、いろいろな雨水の再生策がSDGsには欠かせないので是非記載していただきたい。</p> <p>更に、柴田委員の意見に『雨水浸透は重要な機能だが、それだけではグリーンインフラの概念が矮小化されてしまう。地下水位を涵養するために雨水浸透の機能を街路樹周辺で強化します、と素直に言えばよいのではないか。これをグリーンインフラと言うのであれば、もう少し広い機能を念頭において記述すべきではないか。』というものがある。事務局の考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>グリーンインフラの効果・効用は非常に幅広く、ここで記載の2例、地下水涵養や涼しい歩道を作る以外にも、地球温暖化解消や生物多様性等の効果も持っていることから、それらにも触れていきつつ、ここではあくまでも代表2事例を記載させ</p>

<p>田中会長</p>	<p>ていただき皆様のご意見を伺って行こうと考えたところである。</p> <p>SDGsの中にはパートナーシップがある。レインガーデン等は、雨が降り・雨がどこに行く等を子供たちと考える時に大事な取り組みである。熊本市は飲み水の100%が地下水であり、象徴的な面からも是非事例として書いていただきたいし、そういったところにも力を入れた街路樹の再生を我々は考えているという意味でも、広いグリーンインフラの説明等も加えていただきたい。</p> <p>その他意見があれば願います。</p>
<p>福西委員</p>	<p>グリーンインフラを読む中で、このような道が出来れば素敵だと思うが、今の道で簡単に事例に示されたことが実現できるのか伺いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事例左下のレインガーデンを説明させていただくと、植樹柵の中を水が浸透しやすい石や砂に置き換え、道路側溝から流れてくる雨水を柵の中に流し込み地下に浸透させるものである。その浸透量を超えたものについては、再度道路側溝に流れ出て、そこから次の植樹柵に道路上の路面排水が移動していくものであり、地下水の涵養と道路冠水の軽減につながるものである。整備については課題も多く直ぐには出来ないが、街路樹を伐採する際や植樹柵を整備する際に、そのような雨水処理層に使用するような再生路盤を活用して整備していきたいと考えている。</p>
<p>福西委員</p>	<p>基本の2路線を重点的に整備されるのか。市民からすると、このような素敵な道は観光客が沢山来る街中で行い、熊本市が地球環境や水に配慮した道づくりに取り組んでいると自慢できるのではないかと考える。街中でも是非取り組んでいただきたい。</p>
<p>田中会長</p>	<p>地下水の涵養として、これまでも道路整備の時に透水性舗装といって雨水が路面で止まらずに浸透する舗装を整備する等、今までも頑張っており、自慢不足というか、中々市民に伝わることが出来ていない。少しお金がかかっても面的で整備することは有効であり、熊本市民はそのようなことに気づかっている等のアピールも大事であると思っている。コストも含めて面として取り組むことの大事さや、多少のお金がかかっても検討していくということが書かれていると理解願いたい。</p>
<p>松本委員</p>	<p>個別路線の話になるが、日銀前から市役所通りは、街路樹本数が多いので間引きし、個々の樹木の理想の姿を際立たせて自然樹形に仕上げる計画となっているが、街路樹は基本的に個々の美しさだけでなく、連続した美しさも非常に要である。中には、接近し過ぎてお互いの樹木間の被圧を受けて衰弱し、倒木の危険があるものもある。それらは伐採が必要であるが、本来そこにあるものを、現状の形を変えるような伐採をすることで、日が当たったり雑草の繁茂が大変になる等、経験上逆にお金がかかることに繋がりはしないかと思ったりする。</p> <p>路線毎の残存率で整備する考えではなく、大事なところには補植を積極的に進める。非常に管理が厳しく、今後住民の方々の生活を侵害するような街路樹があるところでは、思い切って街路樹を伐採し、他の樹種に転換する等の、選択と集中、メリハリを付けた考え方が大事であると考えている。一応に何%・何%と本表に伐採</p>

<p>事務局</p>	<p>に当たる要綱を書かれているが、一律に物差しをあてるのではなく、もう少し街の魅力等を考えメリハリを付けるべきだと思う。</p> <p>残存率を記載することについて、事務局内でも意見が分かれたところである。決して何%削減したいとかの目標値として記載したものではない。このような取り組みを行うことで、どの位の本数が残るのか、どの位の本数を切るのか等、委員各位からのご質問にお答えする際の参考情報と考え、記載したものである。</p> <p>選択と集中に関しては、例えば熊本高森線B区間の市役所から大甲橋の鶴屋向かいの肥後銀行がある通りにケヤキが10本以上あり、現地調査を行った結果、ほとんどが腐朽しており全て伐採するしかない状況であった。鶴屋前でも同様のケヤキが所有地内に植えられ、冬はイルミネーションがされている。対向地の道路区域についてもケヤキを植えて、出来れば両側合わせてイルミネーションのようなものを作っていけると、街の賑わいにもつながるのではないかと考えている。</p>
<p>松本委員</p>	<p>今の話はある意味理解できるが、ケヤキ並木を熊本市でも採用された時期があり、いろいろな所にケヤキを植えられた。モデルになったのは多分仙台の青葉通りや定禅寺通り、原宿の表参道など、そういった街路が素晴らしいということで、是非これを熊本の目抜き通りに、との考えだったのではないかと思う。一つだけその敵に欠落していた考えがあるのではないかと思う。それは、道路の幅員である。基本的に仙台の青葉通りや表参道等は、幅員が10mや7m以上有り、植栽帯の幅が3.5mある。そこでも表参道など根上の問題が有り、日々植え替えをする等の問題が発生している。そういった状況があって、熊本の電車通りの状況を見ると、植栽帯どころか道路幅員が3.5mほどしかない。私の一存で如何こうすることは出来ないが、あそこにケヤキを植えることは無理なのではないかと思っている。説明のとおり、全部伐採し、他に樹種の変換や大きくなるスピードが緩やかな樹木に換えるだとか、或いはどうしてもケヤキをとるのであれば植栽基盤を確保出来る様なフレーム等を入れ、その中で根をガードして上から舗装できる様な工法等も有ることから、その様な新しい工法を検討しないと、同じように伐採し同じようにケヤキの苗木を植えても30年前に我々が犯したミスを、30年後の人が悩まなくてはいけない等、同じ事の繰り返しとなるのではないかと思う。ここは慎重に検討していただきたい。</p>
<p>田中会長</p>	<p>連続性の話でのメリハリは必要と考えているが、現時点では整備計画であることから、本再生計画素案の掲載内容に過不足は無いように思われるが、この理解で良いか。この時点からもう少しメリハリを付ける記載が必要か。</p>
<p>松本委員</p>	<p>このまま事業が本再生計画に沿って流れてしまうと、一律伐採となってしまうのではないかと思っている。</p>
<p>田中会長</p>	<p>その意味からも「選択と集中」や「場所にプライオリティを付ける」等、メリハリを付ける一文を加えてもらう。ベースは本再生計画素案と理解してよいか。</p>
<p>松本委員</p>	<p>了解した。</p>
<p>田中会長</p>	<p>ケヤキの話については、ある方から「熊本らしい街路樹を」との話を伺う中で、</p>

	<p>様々なモデルがあるが、先ほど伺った仙台とか原宿とか北の方のケヤキをわざわざ南国の熊本に持ってきて上手くいくのか、いかないのか等、同じ日本だからとは言え日本も縦長であり、そこも含めて今回は樹種についてもケヤキと記載されているからケヤキに縛られるのか、それとも実際にやっていく中でケヤキでは無い選択をすることも出来るのか、伺いたい。</p>
事務局	<p>樹種については沿道環境であったり、熊本市という地域特性にふさわしい樹木であったりを検討した上で補植したい、との記述で修正していきたい。</p>
松本委員	<p>植栽基盤を30年前とは違いしっかりしないと、非常に短期間で同じような根上りだとか根株の腐朽が起こり、市民生活に危険を及ぼすようなことが現実のものとなる。そのためには経費は掛かるが、しっかり上だけでなく植栽基盤についても整備をお願いしたい。</p>
坂元委員	<p>例として、最近防根シートも出ており、根上り防止や地下にある下水管等に影響を及ぼさない様に、周りを先に囲っておくことができる。そのようなことをやりながら、更新していく等の記載があるほうが、次の方々が分かりやすいのではないかな。</p>
田中会長	<p>35年前にやったことを、次の35年に持っていかないということは、まさにサステナブルであり、樹種の選定だけでなく、工法については技術革新等もあるので、それらも使っていくと記載するとよいのではないかな。</p>
吉村副委員長	<p>参考事例として、鶴屋前のケヤキの話が出たが、鶴屋東館前の敷地内にケヤキ10数本を植えられて10数年経つが、あそこでさえ毎年剪定をしている状態で、大きさの制限をクリアする必要がある等、定期的な手間が非常にかかっている。</p>
田中会長	<p>まさに吉村副委員長の事例が、先ほど松本委員がお話しされた「選択と集中」や「都市の資産としての街路樹」で、鶴屋は熊本の老舗デパートとして頑張って民の立場でやっていただいている。お金もかかっているんで、今後は一緒に公民連携でやっていこうと議論していくのが、本計画の非常に大事なところであると思う。</p> <p>勝手に決めたら計画通りにやらなくてはいけない等ではなく、臨機応変に対応できる余白を残していただきたい。また、アップデートしていける様な計画として書かれていると理解している。</p>
坂元委員	<p>資料2の19ページ、伐採(表)の安全安心の欄の視距不良・視認性低下・景観の欄の過密化の項目については更新に含まれていない。これらの項目については、基本的に伐採だけを行い更新はしないことになる。それ以外の項目である樹勢衰弱・樹木異常等は、事故発生に被ることから伐採後に更新していく等、分かりやすく記載していただくと理解しやすいのではないかな。路線整備計画(資料)の4ページに更新サイクルとある。その記載内容の中で、同じ樹種で更新サイクルの違いが示されているが、その理由を伺いたい。</p>
事務局	<p>路線の現地調査をする中で、樹木の幹回りや成長の具合、植樹柵の余裕範囲等を勘案し、その樹種が1年間どれくらい成長するのか等を見込んだ上での見通しである。</p>

坂元委員	木が若いか古いかを判断して示されたと理解してよいか。20年後とは、少し若い木が多いと判断した上で検討する、と解釈して良いのか。
事務局	成長したとしても、道路空間における街路樹、沿道に及ぼす悪影響等が特段見られないであろう、といった見方もあると考えている。
田中会長	坂元委員の話を伺い、大事な話と思った。先ほどの説明では、問題を先送りしているような気がしたが、いかがか。
事務局	先送りしているわけではない。
田中会長	空間に対して街路樹が若いとかは有ると思われるが、まだ余裕があるから大丈夫と聞こえるが、それでいいのか悩ましい。
松本委員	樹木は肥大成長する。植マスと幹の距離が短くなり詰まってくると伐採するのだと、そういった物差しで良いのか疑問である。もちろん詰まってきた、根上りで歩行者や車輛交通等に問題がある場合の伐採は理解できる。そもそも肥大成長する樹木に対して、肥大成長したから伐採します、との物差しの当て方は少し違う感じがしてならない。行政の方ですから、何かの基準を数値化しようと考えたのは分かるが、少し気になるところである。
田中会長	危険性が有り、直近10年で見直さなければならないものは、後10年で見直していかなければならないが、どちらかと言えば20年が問題である。今後、街路樹については、お二人の話にあったように、これ以上根上りが広がらない様に処置をしていくとか、植え替えに対してはそのようなことをやっていくとかを書くのが、計画の大事なところではないかと思う。もちろん、路線に対して適切な植え替えであるとか、処置を見積もっておくことは大事なことだが、その間に、次にするアクションについても、このような方針で植え替えていく等の方針も記載しておかなければいけないのではないか。 この計画の良い所は、分かりやすく残存率など決して目標とは思っていないがこうなる、と空間の管理や眺望として非常に優れていると思う。方針としては、今後植え替えられるものに対して、根が重なるということであったり、樹冠が邪魔になり伐採するとかの話も大事ではあるが、その後植えるものについてはどのような思想で、熊本らしい樹木を選ぶとか、大きく成長しないとか大きくしていいところでは大きくなる樹木を選ぶとか、熊本らしい街路樹を選定していく、ということも合わせて記載していく必要もある。 適切なグリーンインフラとして機能するような街路空間に、適宜更新していくといったことが書かれるべきである。 思想としてなので、行政の計画としてそこまで書き込むことができるのか。目標像はそうであると思うが、考えを伺いたい。
坂元委員	私の先ほどの意見の、古い木か、まだ新しい木かとの言い方をしたのは、更新サイクルの意味合いがどちらにあるのかを確認するためであった。更新には二つ有り、同じ種類の木を植え替える場合と樹種を変える場合があって、ケヤキを植える決めてあったことから古い木が10年後に植え替えの時期になり、若い木に近い

<p>事務局</p>	<p>方は 20 年後の植え替えの期間なのかと思い質問させていただいた。もしかしたら、熊本市の考えでは更新サイクル 10 年と言うのは、木の種類を換える、ということの検討をこの時期にしたいと考えて書かれていたのかと思い、質問させていただいた。</p> <p>今回計画を実施した後に残された、例えば高森線であればイチョウは 10 年後若しくは 20 年後の同種・異種の植え替え更新を進めていくとの意味合いである。</p> <p>ここに更新サイクルを記載させていただいたのは、前回の委員会において澤委員の発言の中で、更新サイクル、新しく樹木を植えるものを何年で植え替えていくのかとの考え方が重要、とのご意見をを受けて記載させていただいた。今議論なされていることを正確に受け止めきれていないかもしれないが、冒頭の説明に対しどのようなプロセスで更新サイクルを記載させていただいたかを述べさせていただくと、道路緑化技術基準に記載されている街路樹の理想樹形を決めた後に、その街路樹の樹高を道路空間において 6 車線の道路、軌道敷、歩道幅員は何メートル等、道路空間において何メートルまでの樹高に伸ばしていくのか、その樹高に伸ばした時の樹種毎の樹冠の広がりは何メートルか、であるならば樹木間隔は何メートルが適切であるのか、等の視点で現地調査を行った時に、残されたイチョウについては道路空間・景観という面において、10 年若しくは 20 年の成長の余地があるな、とのことで更新サイクルを記載させていただいた。10 年後・20 年後に更新を行う際のビジョンを記載できるかについては、何々を検討する、との結びになるかもしれないが、本文中のどこかに記載することは可能かと思われる。</p>
<p>田中会長</p>	<p>今の回答で了解した。知りたかったのは、20 年後に更新された後に、ここに何と書かれるのかなと、今度は 40 年とかになると良いのではないかと思ったところである。いつまでもここが 20 年とか 10 年経ったら 10 年と 20 年経ったら 20 年とかの書き方であれば、それはサスティナブルとは言えない。そのたびにお金が出ていくことになる。植え替えの時期に、それが伸びるような仕組みを計画で書くというよりも、更新時に次の時にはこうしたらよい、等が書けるようなことを検討していただい。</p>
<p>事務局 田中会長</p>	<p>[資料 2 第 4 章 効果的な管理手法の検討 (24 ページ) 以降に基づき説明]</p> <p>柴田委員から二つのご意見をいただいている。</p> <p>一つ目は『25 ページ (3) 民間による街路樹管理・利活用の概要の部分において、「してはいけないこと」、「してもいいこと」、「したほうがいいこと」が写真付きで事例されているが、これらをここに簡単に掲載しても良いものか疑問に感じている。たしかに「してはいけないこと」として掲載された木登りはだめだと思うが、それに代表されて「遊んではだめだ」とされてしまうと、例えば幼稚園児が紅葉の綺麗なイチョウの葉っぱを拾い遊ぶであたりが出来なくなるのではないかと。また、伐採してはだめ等、分かりきったことであり、わざわざここで写真付きで掲載しなければならないのか。例示と言葉が一面的に掲載するにしても、もう少し慎重であるべきだと思う。このことは、樹種や路線さらには地域によって違ってくると</p>

	<p>思うし、ひいては、地域で市との共存の中で検討していくものではないか。公民連携の下で進めていくものであり、再検討が必要ではないか。』というものである。</p> <p>ここは大事だと思っている。前回会議において、福西委員から管理等どこまでやってよいのか等分かり難い、とのご意見があった。当然伐採しようとする人はいないと思うし、いては困るが、街路樹は資産なので、このようなことを書いておくことは非常に大事だと思っているし、逆に高木の剪定も危険なのでやめてもらいたいが、中低木の木は切ってもいいですよとか、それを誰が切ったか分かるほうが良い。それを積極的にやっていってもらうためには書かないと分からないので、私自身は書いたほうが良いと思っている。柴田委員は、少し安易すぎるのではないかとのご意見である。これについての考えを伺いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局としては、福西委員のご意見を踏まえて直感的にご理解していただけるように、これを記載したものである。柴田委員のご意見にある、少し安易ではないか、とのことであれば、「してもいいこと」、「したほうがいいこと」については、市民との意見交換も含めて構築していく、との記載でもよいかと思っている。</p>
<p>田中会長</p>	<p>その件について、後ほど広く皆さんに問おうかと思っている。皆さんも、ここに書くべきかどうかのご意見を考えておいていただきたい。</p> <p>一点大事なのは、上の図（25 ページ：実施範囲図）が大事だと思っている。今までは行政は行政で、市民は市民でとグレーなゾーンが余りなかったと思うが、最近ではプロ集団的な造園業協会がそれに位置付けされると思うが、後はセミプロと言われる自分たちで学習してきた方たちがいる。今は「してはいけないこと」、「したほうがいいこと」と行政と民間で分かれているが、その間、例えば「阿蘇の野焼き」というと、グリーンストックのように許可制にすると「やってもいい」とか、それが財源となりサスティナブルになる等、いろいろあるのではないか。「どこまではしてはいけない」、「どこからはしてもいい」、「どこからしたほうがいい」等のところを議論していくことが大事ではないか。そういった意味でも下の絵と上の図はセットであるべきとの意見がある。</p> <p>二つ目の柴田委員の意見として『27 ページ 公民連携・市民連携、市民との協働型について、計画づくりのプロセスだけでなく、計画策定後の実施段階においても実質的な部分において、公民連携・市民参加・市民との協働等どのように進めていこうとしているのかを伺いたい。』がある。</p> <p>今回の重点路線は、交通量が激しいところであり、周りに住民等が張り付いていない地域もあつたりする。そのような所では、市民との協働は考えておらず、市民の意見は何うが、実行段階では市の責任において実行するのは有りだと思う。実行段階も市民を巻き込みながら頑張ると言うのであれば、早めにそれを市民に詳らかにすることかと思う。その様な本質的な市としての考え方を、計画段階で見せるのか見せないのか、との話ではないかと聞いていて思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>例えば、重点2 路線については、幹線道路であるということ。前回の議論を含めて、行政主体で進めていくものと思っている。ここで公民連携を妨げるものではな</p>

	<p>く、例えば高森線の植樹マスを活用して、地域で何かをしたい等のニーズがあれば、意見交換してもらい、お願いする等もあると考えている。ここでは、あくまでも基本的な方向性というものを記載しており、中身の深掘については今後進めていきたいと考えている。</p>
田中会長	<p>先ほど緑化フェア等の話もあったが、そういったことも進めていこうとなった時に、ステップが具体的にどうなっていくのか等、当然ずれてくると思われる。仮にこういうステップを示している意味は、大事なことと思う。それについては柴田委員も認めていただいていると思う。やってみないと分からない部分もあるが、次年度、ここを中心にいろいろ議論できればと思う。現計画の段階ではどうなのかと感じている。国土交通省では公民連携をされていると思うが、公民連携のステップを計画に書くことについて、坂元委員にご意見を伺いたい。</p>
坂元委員	<p>自身の勉強不足もあるが、今のところ国土交通省の中で、公民連携のステップでやっていこう等のものは認識の中にはなくて、逆に前回話をさせていただいたが、「道守」や今ある制度のものを一生懸命にやっていくということを進めている。書いてあるステップについては、行政マンからするといいことだと思うが、目標を定めて、案ではあるが書くという部分については、書いたら多分行政の方は大分苦労があるのではないかと思う。</p>
田中会長	<p>良くわかります。技術者としては書くほうがいいと思う。こうゆうステップを考えていると。間違っているかもしれないが、やってみないと、ということについては賛成であるが、行政として確実に書いてしまうと、それをクリアしていかないと、計画を立てたのにやってない、と言われてしまうのはあると思う。少しぼかした書き方はあるのではないか。確実にやろうとしているネオグリーンプロジェクト等は、やろうとしていることから、いろいろやってもらっていると聞いている。そのことを考えれば、熊本市は街路樹には本気なんだ、ということを示す、という面では非常にいいのではないかと思う。国ぐらいの大きな所帯となると、そこは書けないが、熊本市だから書ける、という個性のある計画になるのではないか。</p>
吉ヶ嶋委員	<p>25 ページ (2) 公民連携における官と民の実施範囲の上段図の中で、交通量が多い少ない道路の中で少ない道路については、この図でいくと、基本的にはほぼ民間で管理をやっていくように見える。道路管理者からすると、万が一道路上で事故が発生した場合には、行政側でしか対応できない。気になる点として、点検というワードがある。「したほうがいいこと」と示された街路樹点検については、技術者からすると専門的な知識があった上での点検、或いは一般の方が行う点検とは非常に差があると思う。従って、この図と合わせた時に、どのような考えで仕分けを求められているかを伺いたい。</p>
事務局	<p>25 ページ目の模式図については、ご指摘通り、民間の割合、行政の割合が適切でないことから、修正させていただく。下表の街路樹点検については、ご指摘のとおり、道路管理者が行う、樹木医が行う専門的な点検と民間・自身で行う点検に差があることは理解している。例えば、自分の家の前の街路樹がいつもと葉っぱの茂り</p>

<p>田中会長 事務局 田中会長</p>	<p>方が違う程度の内容を、行政にお寄せいただくと、そこに目掛けて目視点検を行うことができる、との意味合いを含めている。</p> <p>この模式図は道路の街路樹の話であり、道路の話ではないと理解してよいか。そうである。</p> <p>交通量の多い道路の街路樹での話とのことである。ご指摘のとおり、交通量がゼロとなることは無く、当然そこは書き直したほうが良いと思う。</p> <p>右端左端は分かりやすいが、真ん中当たりの時に考えて行こうと言うところがミソであり、図自体はいいのではないかと思う。点検については、やる人によって点検の意味合いが変わってくる。そのことを議論していくということで、街路樹の点検やパトロールとか、子供達が自分たちで自主パトロールをしていて街路樹好きになり、職人さんになりたい等と思う子供が出てくることもあるかもしれない。プロが素人に点検を教えるようなコミュニケーションも考えられる。</p> <p>今言っていたような誰がやるのか、どうゆう風にやるのか等のバリエーションもあるので、この図は有ったほうが良いと思う。自分達のやりたいこと、やっていることがどこなんだろうとかの置くマップとして使えるのではないか。表現は、柴田委員のご意見にあったように、一義的な感じもするので、もう少し漫画チックにして、いろいろなことが考えられるような、「こんなことも、こんなこともしたほうが良いことなんだよ」みたいなことになりそうではあるが、その辺は検討していきたいと思う。</p>
<p>松本委員</p>	<p>公民連携ではいろいろな事が書かれており、その通りだと思うが、大切なことは、街路樹を再生していく上で、一般の人たちに街路樹に目を向けてもらうこと、街路樹と仲良くなってもらうことだと思う。</p> <p>この公民連携や効果的な管理方法、管理に一般の方を入れることが、効果的かはわからない。一般の方を管理に入れることで、街路樹の管理を縮減する等の気持ちは無いと思うが。ボランティアは大事だが、私はここでは3つの柱があると思っている。</p> <p>一つはボランティア、次に26ページにある教育、しかも教育の中でも幼稚園や小中学生等の若年層に対して、緑の重要性を学校教育の場で訴えてもらう働きかけが重要であると思う。三つ目として、広報がある。樹木は大事であるということ、行政の方々が積極的に広報することが大切だと思う。</p> <p>昨年国際シンポジウム参加した際に、メルボルン市役所の緑化担当の方の講演を聴講した。メルボルン市は、夏の高温により樹木が枯れている状況にあり、「メルボルン市を冷やせ」とのキャンペーンの下、インターネットやメール等を活用し、バナーや立看板等いろいろなことを駆使して、メルボルンを「クールダウン メルボルン」とのキャッチフレーズの下、行われていることを力説されていたことが非常に印象的だった。</p> <p>熊本市は、非常に緑の資産としては恵まれていることから、それをもう少し今後の若い人たちに関心を持ってもらえるような広報が必要ではないかと思う。樹木の</p>

点検のところで、「したほうがいいこと」というよりも「してもいいこと」としたほうが良いのではないか。

15年くらい前に、ある造園会社が菊池の管轄で、木が倒れ被害者の方と裁判となり、結局和解勧告となったが、県の方で200万円位の和解金を支払った事例があった。事例の問題の木は、造園業者が業務委託の中でパトロールをされていた。毎日樹木に接している方でも、樹木が倒れるか倒れないかを見極めるのは非常に難しい。それを積極的に進めてしまうと、民間の方がパトロールで見たから大丈夫だ、との変な錯覚に陥っていないかと気がかりである。ここは慎重にやったほうがいいと思う。高度成長時代に、いろいろな都市のインフラが整備されて、それが一気に老朽化している。それと樹木も同様である。樹木は自然だから分かり難いだけであり、何時倒れてもおかしくない樹木が、熊本市内の中には沢山ある。先ほどケヤキの木が危ないと話されていたが、それもこの一つである。そういったところからも、樹木の点検については慎重さが必要である。

田中会長

松本委員の「街路樹と仲良くなってもらう」は、本当にいいキャッチフレーズだと思う。効果的な管理というと、市民目線で言うと辛いところもある。行政が作る計画なので、これはこれでいいと思っている。そうすると、松本委員が言われた三つ、ボランティア・教育・広報を、どこに書けばいいのか。ステップのところでもラム的に記載してもいいのかもしれないが、少し整理しておく必要がある。

ネオグリーンプロジェクトのところに書いてあるかもしれないが、人材育成のイメージがあってもいいのではないかなと思う。点検の方は、逆のことを言えば「しなければならぬ」ということもある。ここでは民間による樹木の管理であり、市民と民間を分けるのか。一人でできること、十人でできること、百人でできること等のような分け方でもいいのかもしれない。事務局の説明にあったように、まずは自分の家の庭木を点検することはやってもいいし、むしろやっていただきたいことである。人様に危害が加わるような樹木については、日頃から注意をするとともに、ちゃんと勉強した人はしてもいいのではないかな。点検にもいろいろあることがよく勉強できたので、そのへんの書きぶりを少し横断的になるかもしれないが、もう少ししてもいいこと、してはいけないこと、もう少しこちら側を一人でできること、皆で出来ることと分けるなど、そういう書きぶりがあってもいいのではないかな。後は誰がするかということも大事なので、そのへんを分かりやすい図にはできるのではないかなと思う。これだけ議論が出るということは絶対よい図になる可能性が高い。これで諦めてしまうと、折角みんなで作っているものがなくなってしまふ。計画をどこまで示すかが大事なので、「してはいけないこと」、「してもいいこと」、「したほうがいいこと」という軸を示されたので、熊本市は素敵だなと思っている。それを示さないと、それで行政も悩んでいるということ。それを熊本市の人はどれだけ度量があるか。その議論を私たちが導いていくのが良いのではないかなと思うので、松本委員と吉ヶ嶋委員が言ってくださったのは、すごくありがたいと思う。

<p>原田委員</p>	<p>官民連携の部分で、少しイメージが湧かない。例えば、このしてもいいこと、したほうがいいことを民間の人が独自でやる場合に、それは行政が知らない間にやっている話になるのか。一つ一つの作業を、行政の方で事前に把握してやってもらうという形になるのか、というイメージが湧かない。何故かと言うと、自分の家の前の樹木だけがちょっと枝を切るだとか、低木を剪定する位であればさほど問題ないと思うが、今の話にあったように100人規模でやるとかの話になった時、当然道路使用許可の関係とかが出てくると思う。そういったのも分からずに町内でやって、万が一事故にあった時や、31ページにも出ているが、除草委託の意見の中で看板やカラーコーンがあって車が徐行してくれるため安全に出来た等、こういう意見はともいいことであるが、道路の交通を妨害するという事になれば、道路使用許可が当然出てくるので、それを踏まえてここは検討した方がいいのではないかと思う。</p>
<p>田中会長</p>	<p>すごく大事な事だと思いますし、例えばイルミネーションをすとかライトアップすとか、当然道路使用許可がいるということか。</p>
<p>原田委員</p>	<p>そこは自分も考えてみたが、全て道路使用許可がいると捉えるのかはケースバイケースになると思われる。道路使用許可のところよりも、イルミネーションのところが一番気を付けてほしいのは、やはり標識や信号とか、そういったものの視認性を妨げないことには気を付けていただきたい。</p>
<p>田中会長</p>	<p>そういったいいライトアップとあまり良くないライトアップというのを教えて貰う等、勉強になると思う。例えば、1人とか10人というのは極端かもしれないが、「民間だけで出来ること」と「民間と行政と一緒にやってやるべきこと」というのもあるのかと思う。</p> <p>例えば、柳川市は柳が有名だが、なかなか大切にしてもらえる意識が乏しいので、樹木医が小学生に柳川の柳の木の講義をして、こういう柳は危ないとか、こういう柳は元気なのでこうしてあげて、みたいなことをされた。そうやると意識も上がってくるし、行政がやっていいこととか分かってくる。柳というのは根が大事なので、根の辺りのブロックを退けてあげようとか、そういうことは勝手にやっても怒られないと思うが。</p> <p>確かに10人規模とかで授業をやるとかだと当然学校の許可も要るし、管理関係とかもあると思うのでちょっと大丈夫かな。軸を示して、それに検討しなくてはいけないこと、当然道路使用許可であるとか、誰とやるのか等のステークホルダーであったり、どういう場所でやるのか等もあるが、できれば頑張っ書いていきたい。</p>
<p>坂元委員</p>	<p>25ページの街路樹管理の「してはいけないこと」、「してもいいこと」、「したほうがいいこと」の書きぶりについて、例えば「してはいけないこと」は財産に関する事、「してもいいこと」は危険が少ない作業、「したほうがいいこと」は行政マンから言えば「してほしいこと」のことであるが、日常的な街路樹の変化とか清掃とか、日常的な管理等と書いていただくと分かりやすいのではないか。</p>

	<p>もう一つが「してはいけないこと」はダメなことであるが、「してもいいこと」については、上段において道路特性を踏まえた行政との調整を踏まえること、と記載してはどうか。「したほうがいいこと」については、集めた草などを行政で持っていきます等の応援が出来ます、等と記載すると分かりやすくなるのではないかと。本計画は、一度作ればそれが100%ではなく、何回も作り直し、皆さんが理解しやすいようにやっていけばいいのではないかと。もう一つ気になるのが、上の(2)図で、少ない交通量でも行政が何割か関わるような図を書き直す必要がある。下の民間による街路樹管理の中で、交通量の多い道路では「してはいけないこと」と割り切ったように見える。交通量の多い道路でも、歩道内の清掃等は民間でもできるので、ニュアンスが分かるような書きぶりができるのであればよいのではないかと。</p> <p>文字で財産に関すること、危険なこと等を記載するのはいいと思う。行政との連携で「してもいいこと」では調整が必要であるが「したほうがいいこと」では応援が出来ます等と書くと、先ほどのカラーコーンの話とかの、このようなサービスもある、ゴミ袋は何枚支給する、ゴミも捨てます等の応援できることがあると分かる。</p> <p>行政との関わりの中で、市民や民間でやっていただくことが、非常に分かりやすくなる。図示と合わせてでもいいので、是非文字の表記があってもいいのではないかと。</p> <p>上段の図の指摘についても、上図の方はグラデーションになっているのに、下図ではきっちり描いてある。ある程度規模の道路交通量では、全部してはいけない印象を受けてしまう。この部分もグラデーションというかケースバイケースということ、下の図でも上手く引き継いでいただきたい。してはいけないことが多いイメージである。その辺のところの幅を示すのか、そのあたりは書きぶりだと思う。ご指摘の内容はよくわかった。</p>
田中会長	<p>行政との関わりの中で、市民や民間でやっていただくことが、非常に分かりやすくなる。図示と合わせてでもいいので、是非文字の表記があってもいいのではないかと。</p>
坂元委員	<p>上の方の行政と民間の絵の分が、民間による管理のウエイトが下の方に逆転するような絵になればいいのかと思う。</p>
田中会長	<p>確かに。どちらがイニシアティブをとってやっていくのかとういことに繋がっていくことで、この件につきましては後ほど知恵を出し合いたい。</p>
福西委員	<p>27ページと関係するが、あと4、5年で1番理想的な2023年の実施主体のインセンティブという状態になっていくということなのかと思ったのだが、実際、街路樹の利活用をみて、私自身も子供と子供の友達を集めて、樹木医の先生などに幼稚園に来ていただいて、街路樹の勉強などをやらせてもらえたらいいなと思うし、例えば路面清掃のイベントがあって、参加していいよと言われれば絶対に行きたいと思ったが、最終的にそれは「やっていたら行きたい」ではなくて、自分自身が窓口、リーダー的になってやるというふうになっていかなければならないんだろうと思いつつも、なかなかそこまでは怖いというか、4、5年くらいでそういうふうになんか皆がなっていけるのか、勇気がなくてできないなと思っている人も多いのではないかと考えた。</p>

<p>田中会長</p>	<p>あと、どうしても市民からすると「あれもやってほしい、これもやってほしい」になってしまいがちだが、予算にも限りがあって全部を行政にまかせっきりだったら、こんなにコストがかかっていくから、やはり皆で少しずつやっていかないと、きれいな街、素敵な街にはならないよと、こんなにコストがかかっているから、市民の皆様も自分の財産を守るつもりでやってほしい、というような趣旨が、やわらかい表現で記載されていたらいいと思った。</p>
<p>田中会長</p>	<p>この5年ということについて、確かに最先端の人が5年だったらここまでいけるかなという程度だと思う。よって、多くの状況は段階1のままなのかもしれないが、少なくとも民間の中でもイニシアティブをとってやっていただけるような方たちが、5年経ってここまでいけると、相当熊本市はいけてるという程度ではないかと思う。</p>
<p>田中会長</p>	<p>5年間のステップが今後も続いていくというイメージ、5年間で繰り返されていくというのが大事で、以前は5年かかっていたことが今度は3年でいいというように段々短くなっていった、誰でもできるという、それもSDGsだが、SDGsは誰1人取り残さない、誰でもできるというのが大事だと思う。トップランナーは5年でできるが、ひょっとすれば10年後、20年後でも必ず皆ができるようになるというところを示すことも大事なので、このステップをどこまで一般化するかとこのことを、随時考えていかなければならないことだと思う。街路樹再生計画は5年で立てたら、次の5年が第二次街路樹再生計画になるということであるから、こうしたステップが前回よりも進んでいる中でまた書けるというイメージだと思う。</p>
<p>田中会長</p>	<p>そうしたことを市民目線で、「私だったら」というような例もあったらいいと思う。「あれもしたい、これもしたい、あんなこともやってみたい、こんなこともやってみたい」という中で、「最近熊本市はこういうことをやりはじめた」ということがあれば、「これだったら私もできるかも」、「参加したら楽しかった」、「次はこういうことにも取り組んでみたい」、「じゃあ近所の人たちと集まって、子供たちにプロの街路樹のお医者さんを紹介して自分たちの公園・校庭から見える街路樹について色々考えてみる」というような形がループしていくようなイメージのものがあると、「全体像はこれだけど、この中で1人1人の市民がイメージできる」というものもあるかもしれない。どこまで例示するか、何かイメージはあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>これまでの議論を通じて、現時点の内容は、行政目線のステップを示していると思っている。委員の皆さまが言われるように、市民目線で、1個人がこのフェーズにのってどういうふうになっていくんだ、というものを記載しようと考えた時には、田中委員長がおっしゃったことがそのまま当てはまるのではないかと思う。</p>
<p>田中会長</p>	<p>計画の段階でそこまで記載できるかわかりませんが、来年、ぜひそうしたことを議論したいと考えている。計画は大きなことを記載するので、中々1人1人のためにというのは難しいところだが、ネオグリーンプロジェクトは、恐らくそうしたことも考えてやっておられる。そうしたことを教えていただきながら、協働できたらと思うので、少し説明をお願いする。</p>

<p>緑化フェア推進室 永野</p>	<p>ネオグリーンプロジェクトについては、2022年の全国都市緑化熊本フェアに向けて、官民で連携して花と緑のまちづくりを進めていくということで取り組みをさせていただいている。今後、私どもも事業の流れの中で考えていく中では、1つのコンテストやそうした部分については、あくまでも目標の部分であって、これをきっかけとしてその外側に広がっていく、そういったものを目指していく、1つの活動から段々と外側に広がっていく、そうしたことをやっていきたいというところでネオグリーンプロジェクトを進めていきたいと思っている。</p>
<p>田中会長</p>	<p>大変楽しみだ。人づくりというものは終わりが無いと思う。そうした取り組みでやっていただいているので、本委員会では5年間の計画を立てるということなので、これで良いと思うのが、ネオグリーンプロジェクトで考えておられる、先ほど松本委員に言っていただいた「街路樹が好きになる」、「街路樹に興味を持ってもらう市民」が増える熊本市、そうしたところが少しでも描けたら5年間やっていく中で、そうした市民像や街路樹像がつくっていけると熊本市の看板政策的なものになっていけばいいと思っているので、ぜひご協力いただければと思う。</p>
<p>吉村副会長</p>	<p>民間と連携したことを行うということになると、行政側でどういうことをやりながら民間とどこまでやっていくという目標がどこなのか、とういことを考えるわけだが、民間の最終的な目標は、色々意見が出たように、樹木などに興味を持ってもらうこと、そうした人が増えること、そうしたことが最終的な目標だと思うが、そうした中で段階的にどういうことをやっていくか、例に挙げて記載されているが、最初に何をやるという決め方ではなく、興味を持った方は既にいらっしゃるかもしれないので、段階的に小分けにして記載するよりは全体的にまとめて記載してもらった方が良い。その点を少し考えた上で、記載したら良いと思う。</p>
<p>田中会長</p>	<p>ぜひ、吉村委員に教えていただきたいのだが、産業としての街路樹の関わり方も大事で、サステナブルということで、先ほど強剪定の話があったが、できるだけ強剪定をしたくない。そうすると強剪定せざるをえなくなる前にどうしていくのかということには、プロの皆様の高い技術が必要で、それは安かろう悪かろうでは駄目で、まともな財源を確保して、それを適切な技術者にお願いして、少しでも長く維持できる、樹木がみずみずしいまま長く維持できるような管理システムというものを作っていかなければ、結局は財源がないからできない、強剪定ということになっていくと思うので、持続可能な街路樹のメンテナンスのあり方というものをプロの皆様で検討していただきたく、既に検討していただいているのかもしれないが、そのあたりを教えてほしい。</p>
<p>吉村副会長</p>	<p>街路樹というのは行政的な公共の場の持ち物だ。これはやはり、植えた当時から、植える前から考えることであって、計画を立てて樹木をどこまで大きくしていくか、先ほど松本委員も言われたように土壌の問題や根の問題、色々な問題があるが、今回はこうして計画関係から話が出ているので、そうした時に一番はじめから、植える前から計画を立てて、どういう木を植えてどういう管理をしていくか、最後まで見届けなければ、木は生き物だからどんどん成長する。それをどういう管</p>

田中会長	<p>理をしながら、興味をしっかりとっていかなければ、1年剪定をしないとそのまま大きくなるだけであるから、その点を細かくみていかなければ、2、3年経てば街路樹は非常に成長が速いものについては手が負えない、最終的に強剪定という形になるため、その点をしっかり頭の中に工程を描いてやっていく必要があると思う。まだ細かいことはたくさんあるが、興味を持つ人が増えて、「どうせんといかんよ」ということになる前に手をつけていくことが必要だと思う。</p> <p>最後に副会長に締めてもらった形になったが、私がしつこく言った10年、20年の話だが、12ページにある計画の基本方針の中で再生方針というのが3つ挙がっているが、ここの3つ目が大事なのではないかなと思う。適正且つ効率的な維持管理の推進だが、ここに例えば「持続可能な」、「熊本らしい」というようなことを一言入れるとそこに結局帰ってくるかなと思う。今日は議論はしなかったが、皆様に熱心に議論していただいた内容はここに活かってくると思う。その上の2つは全く問題ないが、3つ目が一番肝になる、持続可能だと、無理無理やっているのではなく、熊本市の街路樹は造園業者の方たちにとってもかなりやりやすい、かなり管理しやすい、見積もり以上にがんばってしまう、そうした良い循環になっていくことが大事だ。</p> <p>今日は皆さんに熱心に議論いただいたので、十分バージョンアップできると思うが、12ページや6ページの強剪定について、そういうことも合わせて見直していただけたらと思う。</p> <p>5. 開会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--